

# 河川財団

河川財団ニュース  
Newsletter from The River Foundation

NEWS

平成28年8月発行

No. 48

特集

## 堤防の植生を 考える

- 植生による堤防管理のあり方 -

コノ人に聞く

### 「元気の源」パークゴルフ

松戸市パークゴルフ協会 会長  
高橋 外志江

Hot Topics

庄内川・幸心河川健康公園  
パークゴルフ場 オープン

河川技術シンポジウム



公益財団法人

河川財団



03 コノ人に聞く

# 「元気の源」パークゴルフ

松戸市パークゴルフ協会 会長 高橋 外志江

## 04 堤防の植生を考える

- 植生による堤防管理のあり方 -

### 12 Hot Topics

庄内川・幸心河川健康公園パークゴルフ場 オープン  
河川技術シンポジウム

#### Contents

#### 河川ラボ



- 14 **レポート** 「第 14 回河川財団研究発表会」を開催
- 15 **レポート** これからの河川維持管理「河川研究セミナー」の開催
- 16 **レポート** 第 12 期河川塾・初等科が開講
- 16 **レポート** 工事現場に学ぶ ～樋管工事現場見学～
- 17 **レポート** 優良業務・優秀技術者表彰を受賞 ～平成 27 年度受託業務～
- 17 **お知らせ** 「第 10 回河川財団名古屋研究発表会」開催案内
- 17 **お知らせ** 河川基金助成事業成果および近畿事務所自主研究合同発表会の開催のお知らせ

#### 河川教育



- 18 **レポート** 企業への協力（東京ガス企業館「がすてなーに ガスの科学館」）
- 18 **レポート** SGH 指定校三島北高校への協力
- 19 **レポート** 第 15 回プロジェクト WET ファシリテーター講習会を開催
- 19 **レポート** ミス日本「水の天使」2015 年度受賞者柴田美奈さん、2016 年度受賞者須藤櫻子さんがプロジェクト WET エducーターに認定されました
- 20 **レポート** 川の指導者（RAC リーダー）養成講習会を開催
- 20 **レポート** 第 13 回 RAC フォーラム「水防災・安全管理についての全国フォーラム」に参加
- 21 **レポート** WECC2015 第 5 回世界工学会議で当財団の河川教育の活動内容を紹介
- 21 **レポート** 水難事故防止に関するマスコミ等への協力
- 21 **お知らせ** 第 16 回 川に学ぶ体験活動全国大会 in 琵琶湖・淀川流域圏

#### パークニュース



- 22 **レポート** 荒川発・扇パークゴルフ初心者講習会
- 23 **レポート** 多摩川 春季ジュニア・シニア・レディースラウンドレッスン
- 23 **レポート** 荒川・扇ゴルフ場ジュニアレッスン
- 24 **レポート** 荒川発・扇河川健康公園ソフトテニスジュニアレッスン
- 24 **レポート** 川崎リバーサイドパークが「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞
- 25 **お知らせ** 荒川発 第 2 回扇パークゴルフ東京大会（仮）
- 25 **お知らせ** 多摩川発 第 3 回多摩川世代間交流ゴルフ大会
- 25 **お知らせ** 庄内川親子自然観察会
- 25 **お知らせ** 庄内川 親と子&シニアゴルフレッスン会

#### 河川基金コーナー



- 26 **レポート** 河川基金中期計画（第 1 期）を策定しました

#### 書籍紹介

- 27 河川教育に関する出版物

## 「元気の源」パークゴルフ

松戸市パークゴルフ協会 会長  
高橋 外志江



「庄内川・幸心河川健康公園パークゴルフ場」のオープンを前に、「松戸市パークゴルフ協会」の会長でおられる高橋外志江様にパークゴルフの魅力についてお伺いしました。高橋様は、20年前にパークゴルフと出会い、その魅力に取りつかれ、千葉県で最初のパークゴルフ愛好者の団体である松戸市パークゴルフ協会を立ち上げました。現在、公益社団法人日本パークゴルフ協会の指導員であり、NPO 法人千葉県パークゴルフ協会連合会の理事もされております。高橋様には、平成26年秋に東京都内で初めてオープンした「荒川・扇河川健康公園パークゴルフ場」で毎月1回開催しております「初心者講習会」の講師をいつもお願いしております。

### パークゴルフがあるから頑張れる！

私は40代のころからグラウンド・ゴルフをしていたのですが、平成8年ごろ、石川県のグラウンド・ゴルフ協会の会長の紹介で、神奈川県開成町のパークゴルフ場（関東で最初）で初めてパークゴルフに出会いました。そして、平成10年に松戸市パークゴルフ協会を設立し、千葉県で初めて国際パークゴルフ協会に加盟しました。

私は平成17年に35歳のお嫁さんを亡くしました。その時、孫たちはまだ幼稚園と小学校3年生だったで、「この子供たちを育てるためにはもうパークゴルフなんかできない」と思い、一時離れました。しかし、何もしないのはいけないと、1年ぶりに北海道のパークゴルフ場に行ってみると、昔の仲間が私を覚えてくれて、「よく来たね〜」と温かく迎えてくれました。思わず涙が出たのを覚えています。他にも苦しい出来事がありましたが、私はこのパークゴルフや仲間たちがいたからやり抜いてこられたんだと思います。どんなに滅入っていても、週末はパークゴルフが出来ると思うと元気が出てくるんです。

### パークゴルフで元気に仲間づくり！

パークゴルフはリタイヤされた方も利用しやすい料金で手軽に始められます。皆さん、定年後にこんなにいいスポーツに出会えるとは思わなかったとおっしゃいます。80歳のお爺さんも赤い帽子に、赤いパンツで元気にプレーされます。朝から晩までお弁当を持って一日中楽しめる方もいます。特に女性は元気で、ご主人が亡くなっても、パークゴルフのお友達の中か

ら新しいパートナーを見つける方もおられて、人生を本当に楽しんでいらっしゃいます。パークゴルフは仲間をつくるきっかけになりますし、無理なく歩けるので、健康にもいいです。ある市では、パークゴルフの健康増進効果が、お年寄りの医療費の削減にも貢献しているという話も聞きました。

### 扇パークゴルフ場の魅力

まず第一に景色がいいということです。風がさわやかだし、開放感があります。

それから、クラブとボールの貸し出しとセットで1,000円というのは安いと思います。千葉でももっと高いところがあります。

### 扇パークゴルフ場に期待すること

扇パークゴルフ場は、都内で唯一の本格的なパークゴルフ場です。また、交通の便もいいので、さらに多くの利用者が見込めると思います。ぜひ、まだここを知らない方にもっとPRしてください。

そして、参加される皆さんの励みになるような楽しい企画や大会を積極的に開いたり、近くのパークゴルフ協会と交流会もできるといいと思います。地元の方々や企業さんとも協力して、もっとパークゴルフを盛り上げて、楽しい仲間を増やしてください。そうして「東京大会」をぜひ扇パークゴルフ場で開催出来たらいいですね。





特集

# 堤防の植生を考える

## - 植生による堤防管理のあり方 -

河川堤防の維持管理は、堤体の異常の有無を目視により点検しています。この点検を可能にするため、年2回の除草を実施しています。しかしながら、近年の外来植物の侵入・繁茂の影響により出水期間中の河川巡視・堤防点検への支障や堤体機能の弱体化等の問題が発生しています。こうした問題を踏まえて、効率的・効果的な堤防植生管理に向けた課題の整理や要因分析を行い、その課題に対する対策(案)をご紹介します。

# 堤防管理の現状

# 堤防植生の特徴と課題

## ■堤防植生の捉え方

河川堤防は、河川及び流域の治水安全度を確保する上で最も重要な河川管理施設であり、その施設延長も長大です。その堤防の維持管理は、堤防表面における異常の有無を点検可能にするため、年2回の除草・1回の集草（出水期前、台風期）を基本に実施しており、その費用は維持管理予算の中でも最も大きなウェイトを占めています。

まず、堤防植生の特性としては、一般にその優占する種によってシバ、チガヤ、外来牧草、広葉、オギ・ススキの5タイプに分類することができます。（図1）

この5タイプの中でも関東で多く見られる堤防植生タイプは、シバタイプとチガヤタイプと外来牧草タイプです。この3タイプの特徴は、以下のとおりです。

### ①シバタイプ

シバタイプは、耐侵食性に優れていますが、維持するためには年4回以上の除草回数が必要であり、現状の年2回除草では、外来牧草へ遷移してしまう傾向にあります。そのため、現状のシバを維持する管理手法が必要となります。

### ②チガヤタイプ

チガヤタイプは、耐侵食性に優れていますが、成長度合いによって草丈が高くなり、河川巡視・堤防点検への支障をきたすことが懸念されます。そのため、チガヤの草丈管理が必要となり



ハンドガイド式



肩掛け式

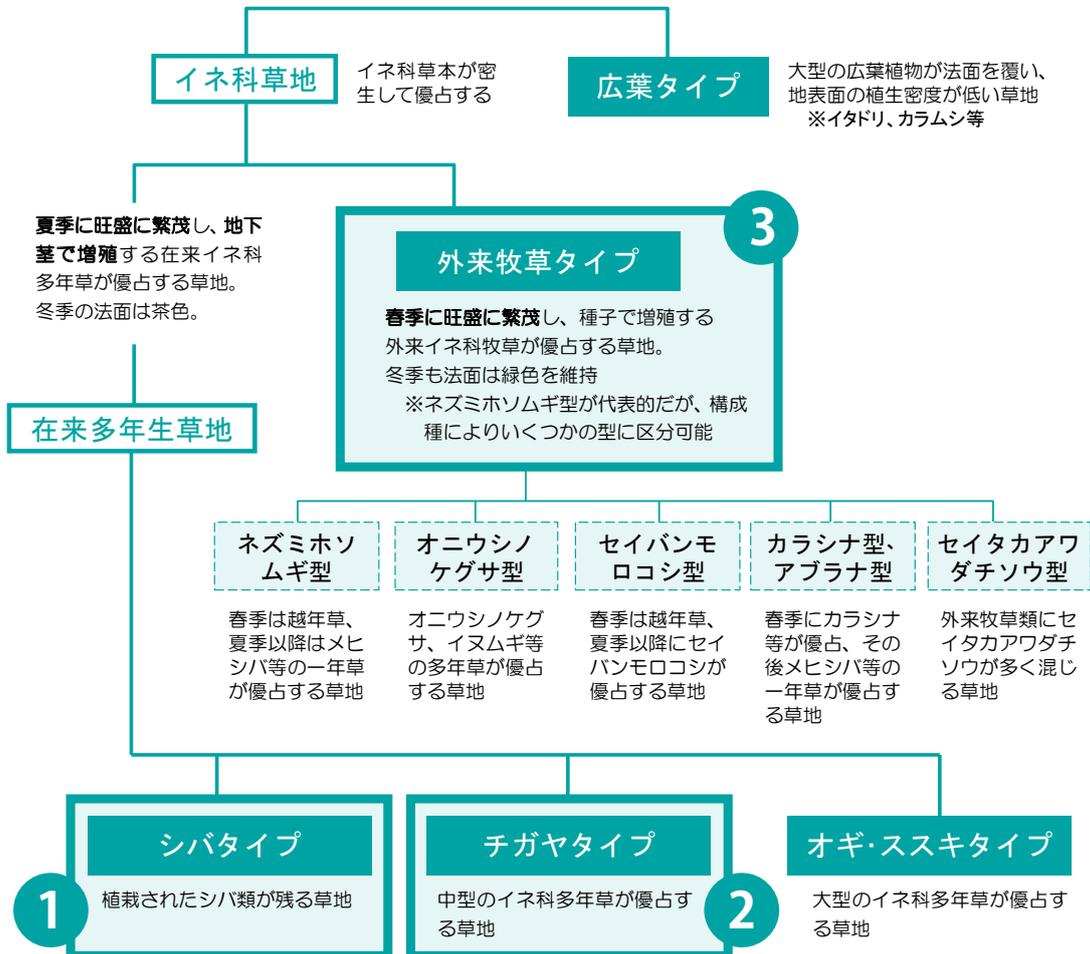


図1 堤防植生タイプの分類

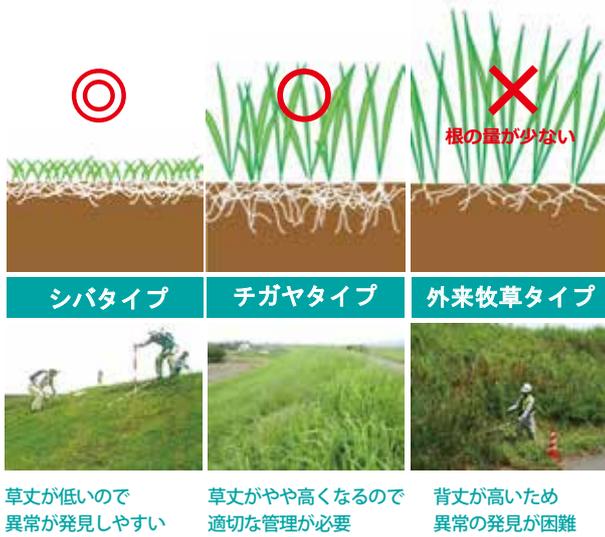


図2 主な堤防植生タイプの特徴

表1 近年調査を実施した4河川の堤防植生タイプの状況

河川名	特徴	堤防植生タイプの割合		
		シバ	チガヤ	外来牧草
利根川上流	・チガヤタイプが主体の河川	約10%	約65%	約15%
利根川下流	・チガヤタイプが主体の河川	約30%	約55%	約15%
多摩川	・外来牧草タイプが約半分を占める河川	約10%	約40%	約50%
渡良瀬川	・チガヤタイプと外来牧草タイプが多く、カラシナの繁茂が顕著な河川	約20%	約40%	約40%

ます。

### ③ 外来牧草タイプ

堤防の強度低下の要因となる外来牧草タイプは、耐侵食性が低く、外来植物の繁茂に伴い法面の草丈が高くなることから、河川巡視・堤防点検へ支障を与えています。(図2)

### ■ 堤防植生の現状

近年において河川財団が堤防植生タイプを調査した河川は4河川あり、各河川ともにシバタイプが約10～30%と少なく、チガヤタイプが約40～65%と半分近くを占めています。多摩川と渡

良瀬川は、外来牧草タイプが約40～50%と多い傾向となっています。(表1)

### ■ 堤防植生による課題

#### ① シバの衰退

堤防は、築堤後の法面保護を目的に張芝が行われ、そのシバを確実に根付かせるために3年間の抜根等による堤防養生を行っています。そのため、3年間の堤防養生期間中の堤防は基本

的にシバが維持されています。

しかし、堤防完成年度別に堤防植生タイプによるシバの生育状況について調査を行ったところ、3年間の堤防養生期間が終わり、維持管理期間へ移行した堤防では、良好な状態のシバタイプが確認されず、外来牧草タイプ等に遷移している箇所が多い傾向が分かりました。また、シバタイプが維持されている箇所であっても外来牧草の混入が多く見られるようになり、通常の年2回の除草ではシバタイプが良好に維持されず、外来牧草タイプに遷移する傾向になっています。(図3)

#### ② 堤防の弱体化

外来植物が侵入・繁茂した堤防は、耐侵食性の低下により堤防表面の弱体化が問題となります。

この耐侵食性は、根系の深さと密度により決まるのですが、表層から10cmまでの平均根毛量を見ると、外来牧草タイプは、シバタイプやチガヤタイプより根毛量が少なく耐侵食性が劣ります。(図4)

また、カラシナが繁茂している堤防は、春季に黄色い花で堤防を飾りますが、夏季に根が腐り堤防表面がフカフカな状態となって裸地化および堤防の弱体化につながります。そのため、特にカラシナが繁茂している堤防は早期に対策を実施して衰退させる必要があります。

ります。(図5・6)

### ④ 河川巡視や堤防点検への支障

セイタカアワダチソウやセイバンモロコシなどの草丈が高い外来牧草タイプが繁茂する堤防は、天端からの見通しが悪く、堤防表面における変状を直接で発見することが困難な状況となり、河川巡視や堤防点検への支障が生じています。



以上のように堤防植生による課題は、多岐に渡ります。また、維持管理予算が厳しい中で、いかにして効率的かつ適切な堤防植生管理を行っていくかについても課題となります。

## 問題の要因分析

### ■ 農薬(除草剤)の使用禁止

平成2年以前は、直轄の河川堤防では農薬を使用した管理が行われていました。しかし、ゴルフ場における農薬の薬害問題が注目されるようになり、平成2

## A 河川

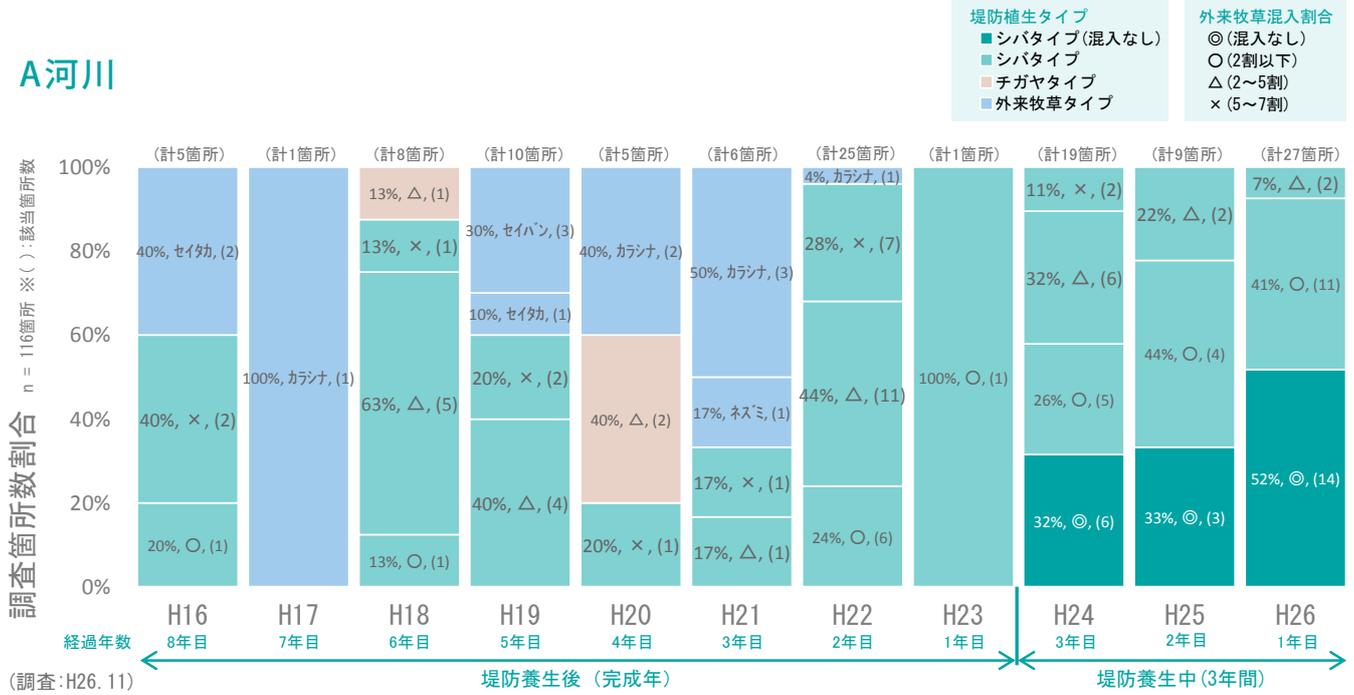


図3 堤防完成年度別の堤防植生タイプ区分状況

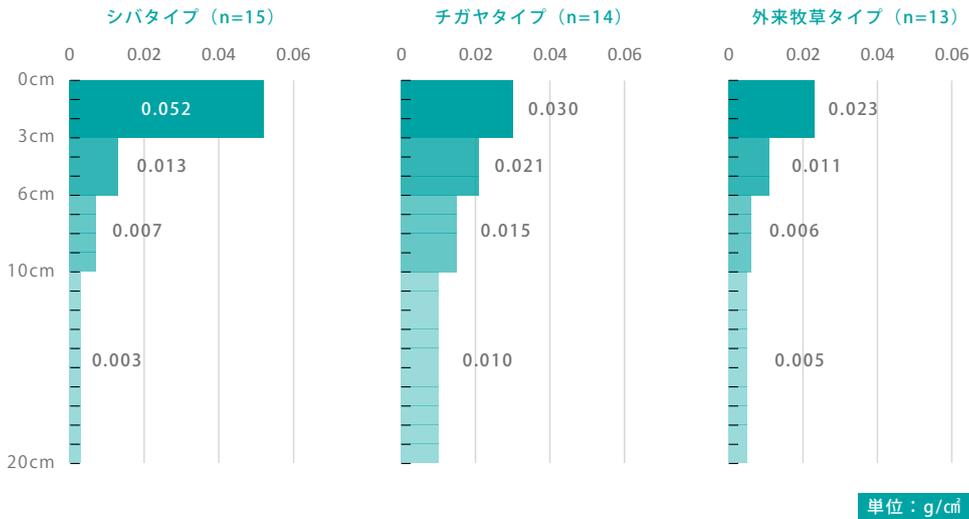


図4 主な堤防植生タイプの平均根毛量



図5 堤防に繁茂したカラシナ

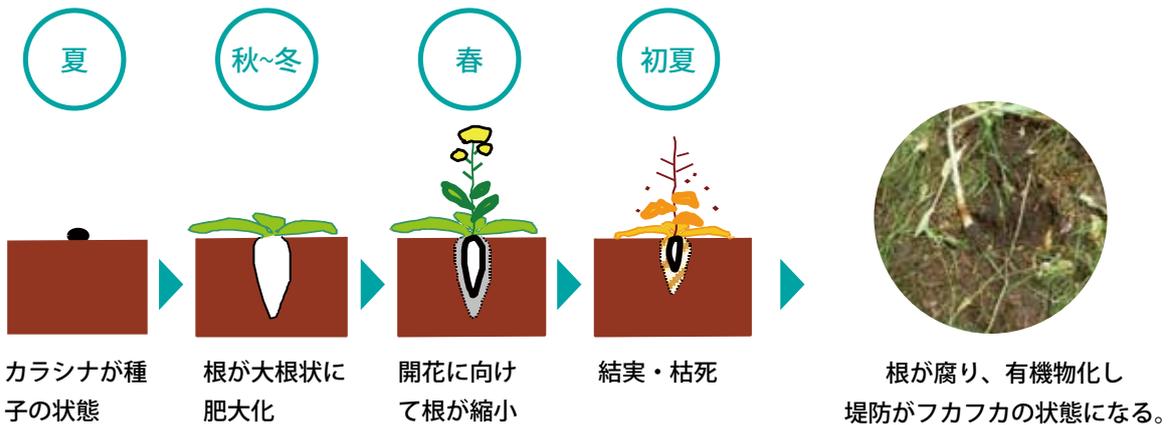


図6 カラシナの成長に伴う堤防弱体化フロー

年に「農薬の使用に関する河川の維持管理について」事務連絡があり、原則的に上水道取水口の上流区域で農薬を使用することが取り止めとなりました。

この農薬（除草剤）の使用禁止がきっかけとなり、外来牧草の侵入・繁茂が抑制できず、様々な問題が発生し始めたと考えられます。

### ■除草回数削減の減少

除草回数等と社会的動向を整理すると、平成2年以前は除草2〜3回と農薬等を使用していました。しかし、平成2年の農薬使用禁止を理由に除草回数が3〜5回に増加しますが、平成4年の野焼き禁止、平成22年の除草2回への移行に伴い、堤防点検時に合わせた除草2回に減少しています。

この除草回数の減少によって、シバの衰退や外来牧草の繁茂、カラシナによる堤体の弱体化、河川巡視や堤防点検への支障等の様々な堤防への影響が近年顕著に発生してきたと考えられます。（表2）

### 長調整剤等の使用による対策

①堤防植生タイプ毎の課題を踏まえた目標の設定

堤防植生タイプ毎の課題を踏まえた堤防植生管理の目標を設定することで、効果的な堤防植生管理を図ることが可能となります。（図7）

②有効的な堤防植生管理手法について

堤防植生管理の目標を踏まえた堤防植生管理手法は、①近年の農薬取締法改正により安全で効果がある「植物成長調整剤散布」、②過去に行われていた伝統的な手法である「芝焼き」、③現状で行われている「刈取り」の組合せが有効的と考えます。

これらの3つの管理手法について、現在の知見により効果が見込め、現状の維持管理コスト以内で適用可能な手法を検証する必要があります。（図8）

④農薬取締法の改正による安全性の向上

過去に河川堤防で使用が禁止されていた農薬（除草剤）は、平成14、15年における農薬取締法の大改定により、無許可の粗悪な輸入製品が販売されなくなり安全性が向上されたこと、使用規制等による飛散防止に配慮した散布方法が徹底されました。

### ■新たな堤防植生管理手法（植物成長調整剤等の使用）

### 課題に対する対策（案）

また、現在の植物成長調整剤は、農

林水産省において登録されているものしか使用できず、登録にあたっては、安全性を確認する試験を十分に行い、規定の使用量及び散布方法において、人体や環境、生物への影響がないことが確認されているので、安全・安心なものになっています。（図9）

④植物成長調整剤散布時における安全性の確認

植物成長調整剤は、前述のとおり、その安全性が確保されたものですが、有効成分の固定分解状況や流出の有無について一般的に懸念される面もあることから、河川外試験場において安全性を確認した実験を行いました（H25、26年度）。

結果は、散布後3週間で概ね固定分解され10週間で検出されなくなりました。この有効成分の固定分解状況は、一般的な植物成長調整剤として妥当な結果となっています。（図10）

また、植物成長調整剤は、土砂降り相当（気象庁基準）の降雨によって、表土と共に流出することが懸念される面もあることから、流出の有無を確認する実験を行いました。

結果は、植物成長調整剤を散布した実験区の直下50cm、さらに下流の全地点において、散布直後から24時間経過した翌日までの時間帯すべてで有効成

分は全く検出されませんでした。（図11）

⑤植物成長調整剤の効果検証  
植物成長調整剤を用いた実験の効果検証については、外来牧草タイプ（カ

表2 堤防植生管理方法と社会動向における堤防への影響

年代	堤防植生管理方法	社会的動向	堤防への影響
～H2	除草2～3回 + 農薬 (+ 野焼き)	H2.3 農薬の使用禁止 (事務連絡) H4.7 野焼きの禁止 (廃掃法の改正)	・イネ科花粉症の発生
H3～H4	除草3～5回 (+ 野焼き)		
H5～H21	除草3～5回		
H22～27	除草2回 (集草1回)	除草2回 (集草1回)への移行	・年2回除草によるシバの衰退 ・年2回除草による外来植物の繁茂 ・カラシナによる堤体の弱体化 ・河川巡視や堤防点検への支障 ・セイバンモロコシ繁茂による処分費増大 ・イノシシによる堤防法面の掘起し

### 堤防植生管理の目標

現状の維持管理コスト以内で、堤防機能の低下や堤防点検等に支障のない堤防植生管理を行う。

- ① 外来牧草タイプの堤防  
カラシナ等の外来牧草を衰退させ、シバやチガヤへの植生の転換を図る。
- ② シバタイプの堤防  
現状の植生を保つように管理する。
- ③ チガヤタイプの堤防  
草丈管理を前提に現状の植生を保つように管理する。

図7 堤防植生管理の目標

ラシナ型)に植物成長調整剤を散布した実験を例として挙げると、散布直後にカラシナが完全に衰退されています。また、その後の草丈も対照区(通常管理の除草2回)と比べても翌年の8~9月まで目視点検が可能な草丈が維持されるとともに、広葉植物が抑制され

イネ科植物が増加していることが検証されています。(図12・13)

⑥植物成長調整剤を用いた場合の有効性  
前述の実験結果からは、現在の年2回除草では解決できなかった出水期間中の河川巡視・堤防点検への支障が解



刈取り

芝焼き

植物成長調整剤

図8 堤防植生管理手法

#### 昔の農薬のイメージ

DDT、パラチオンなどの殺虫剤やベトナム戦争で使用された枯葉剤も農薬と言われていた。

#### 農薬取締法の改正(抜粋)

- 昭和46年：登録制度の強化、農薬の使用規制の整備  
残留農薬に対する対策の整備強化
- 平成14年：無登録農薬の製造及び輸入の禁止  
無登録農薬の使用規制の創設、法律違反の罰則の強化  
農薬の使用基準の設定
- 平成15年：違法農薬の販売に対する販売者への回収等の命令

#### 現在の植物成長調整剤

- 農林水産省に登録したものしか使用できなくなった。
- 残留性や毒性がないものしか使用できなくなった。

図9 農薬取締法の改正による農薬の安全性の向上

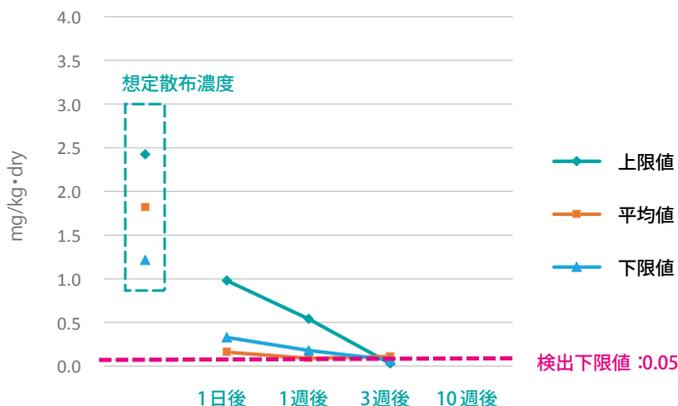


図10 植物成長剤調整剤の固定分解状況確認(例)

■低草丈草種の導入による対策  
草丈の低い草種で堤防法面を被覆することにより、草丈の高い草種等が侵入しにくい環境を創出する対策があり  
消でき、安全性についても農薬取締法のもとに確保されている植物成長調整剤を用いた管理手法を適用した場合の概算コストは、年2回除草の維持管理コストに比べて約30%程度のコスト削減が見込めます。  
削減できた費用は堤防の質を全体的に向上させる作業に活用が可能となります。

ます。(図13)  
この低草丈草種の導入で期待される効果としては、①年間を通じて草丈20cm程度以下であり堤体の状態を把握し



図11 人工降雨による植物成長調整剤の流出有無を確認した実験

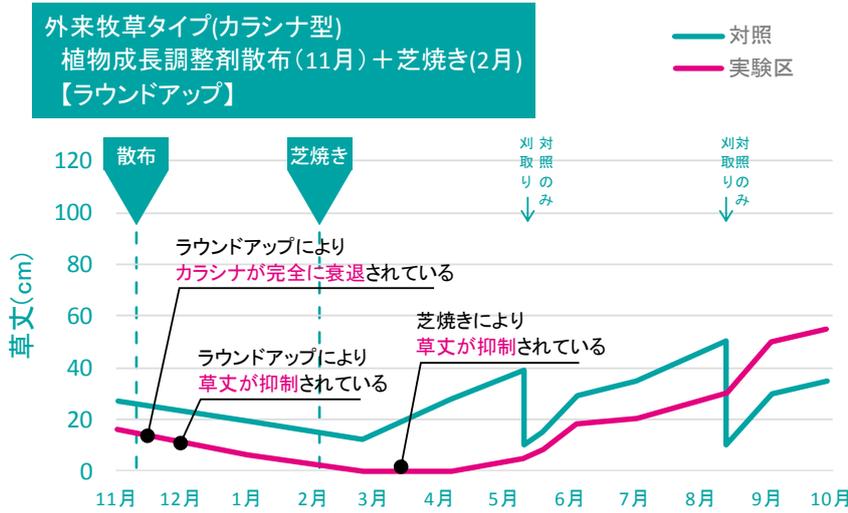
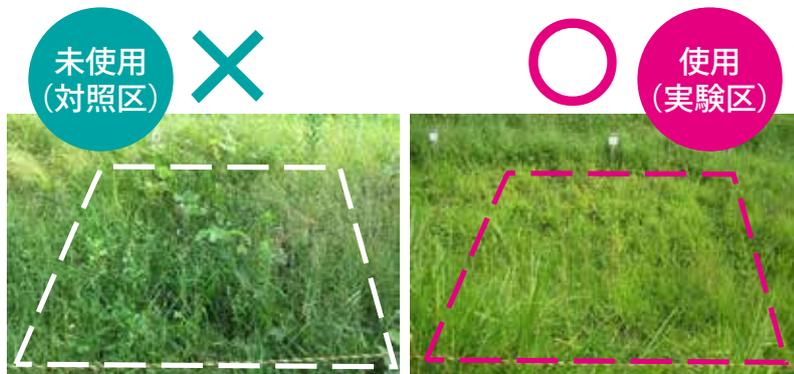


図12 植物成長調整剤散布による効果検証結果(例)



目視点検に支障がある草丈であり、  
広葉植物が繁茂している

目視点検が可能な草丈が維持され、  
広葉植物が抑制されている

図13 植物成長調整剤散布後の効果比較(例)

表2 導入する低草丈草種のイメージ

種名	イワダレソウ	改良コウライシバ	改良ムカデシバ	改良イヌシバ
特徴	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・在来種</li> <li>・甸甸茎の伸長で繁殖(種子での繁殖なし)</li> <li>・初夏に花をつける</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・在来種の改良品種</li> <li>・甸甸茎の伸長で繁殖</li> <li>・草丈は一般的なコウライシバの半分以下</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来種の改良品種</li> <li>・甸甸茎の伸長で繁殖</li> <li>・アレロパシー効果あり</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来種の改良品種</li> <li>・甸甸茎の伸長で繁殖</li> <li>・アレロパシー効果あり</li> <li>・寒冷地帯域では生育不可</li> </ul>

■その他…堤防植生に適した植生基  
やすい草丈の維持が可能、②チガヤタイプと同等以上の根系強度があり堤体の耐侵食性確保が可能、③低草丈で密生状態を維持できるため刈草の処分量が減少し除草コストの縮減が可能となることが挙げられます。

盤土質を導入する対策の研究  
河川財団では、除草回数等による地上部の対策のほか、植生基盤土質の物理特性や化学特性を把握することで、堤防の維持管理に支障が生じにくい植生に適した植生基盤土質へ誘導ができれば、可能性について研究を進めています。

この結果、植生基盤土質のPHや窒素を調整することで築堤の施工直後から侵入する雑草等を抑制できる可能性があることや、維持管理上望ましいシバやチガヤの初期成長を助けることができている可能性があることが分かっています。(図14)

対策(案)の検討にあたっての確認・把握事項

対策(案)の検討にあたっては、「堤防植生タイプ区分調査」を実施して、当該河川管内の堤防植生の現況を把握することが必要です。

堤防植生タイプ区分調査は、管内全域が一目でわかる「概要図」、詳細がわかる「詳細図」に分けて作成します。これにより、各堤防植生タイプの全体、川表・川裏、本川・支川別などの割合や所見を整理することが可能となります。(図15・16)

また、調査結果は堤防植生の現況を表すものであり、河川事務所が行う予算要求等で有効な資料となります。

担当：河川総合研究所

担当：戦略的維持管理研究所



図14 堤防表面30cm程度の植生基盤土質に着目した対策

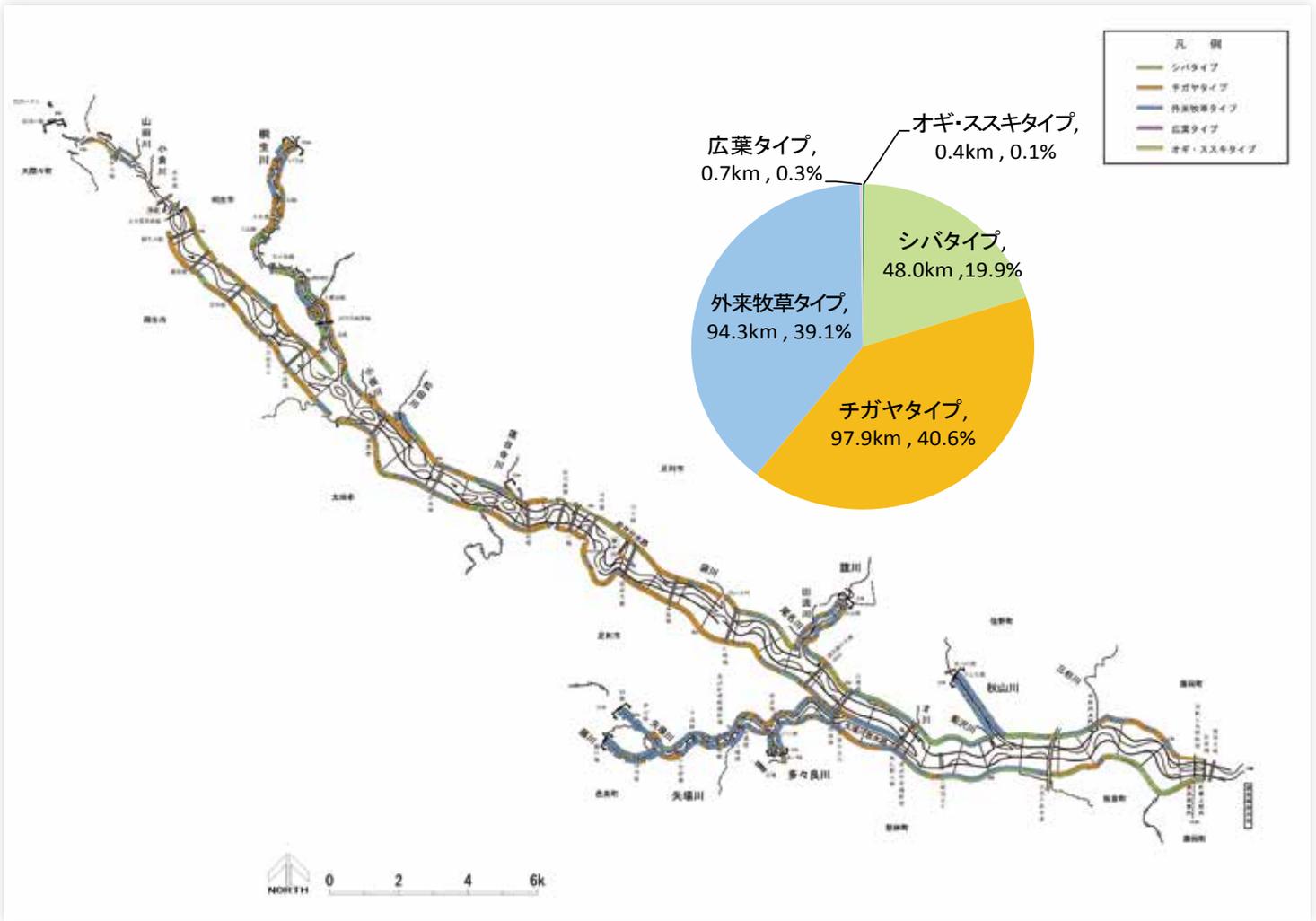


図15 堤防植生タイプ区分調査の概要図イメージ



図16 堤防植生タイプ区分調査の詳細図イメージ

# 庄内川・幸心河川健康公園 パークゴルフ場オープン

平成27年度から整備を進めてきました、庄内川・幸心河川健康公園パークゴルフ場が平成28年8月27日にオープンする運びとなりました。当公園は、良好な河川環境の保全・創出と安全・安心な河川利用ができる場の提供を通じて、公共の福祉の向上と国民の健康維持増進に努めています。

その一環として、公園内において、パークゴルフ場の造成を行い、・自然を大切にする・3世代交流型・安全で楽しいスポーツとして、庄内川に水と緑の潤いを与える整備を行いました。

## パークゴルフとは

パークゴルフは、専用のクラブとボールを使ってカップインまでの打数を競うスポーツで、北海道幕別町で生まれました。誰でも簡単にプレイができ、子供から高齢者の方まで三世代で楽しむことができるスポーツとして全国で親しまれています。

ルールは、ほぼゴルフと同じですが、ペナルティはすべて2打罰や、空振りは打数に数えない、バンカーはクラブをつけて打ってもよい等のパークゴルフならではのルールとなっています。

## 1. 施設概要

総面積10,200㎡の18ホール（Aコース9ホール・Bコース9ホール）グリーンは姫高麗芝で、フェアウェイとラフは高麗芝としました。

コースの距離は全体で703mとなり、Par 66の本格的コースであり、日本パークゴルフ協会の認定コースとなっています。

## 2. 記念イベントの実施

平成28年8月27日土曜日からオープンさせることから、利用者に対してパークゴルフマナー・ルールさらに楽しみ方について、愛知県PG連絡協議会の会長をはじめ多くの指導者による実技練習を中心とした記念イベントを行います。

実施日時…平成28年8月27日（土曜日）10時から12時30分

実施内容…PGのルール・競技方法、およびコースにおいて指導者の下、実技練習を行います。また、午後からは、一般参加者に対して無料で開放します。



← 庄内川

# 河川技術シンポジウム参加報告

平成28年6月2～3日、東京大学農学部弥生講堂で開催された「2016年度・河川技術に関するシンポジウム」にて、河川財団は5編の論文等の発表を行いました。発表論文等は今日の社会情勢を背景に求められる河川技術のテーマとなっている「河道変化と管理方策」(1編)、「堤防管理」(3編)、「減災」(1編)です。

担当：河川総合研究所

ポスターセッションでは、当財団の有する先駆的な技術を参加者の皆様に説明させていただくとともに、多くの方と議論を行うことができました。「気象情報・河川情報を用いた減災への取り組み」をテーマとしたオーガナイズドポスターセッションでは、当財団の理事長が「水害時の避難指示等の意思決定構造に関する研究」について話題提供を行い、昨年の関東・東北豪雨で甚大な被害を受け、迅速な住民の避難行動につながるソフト対策の重要性が再認識されるなか、会場全体で活発な議論がなされました。

本シンポジウムへの参加、多くの方との議論は、技術をより一層深め、今後の展開を思案するきっかけとなりました。今後も質の高い調査研究を行い、論文発表等の機会をとおして河川技術の進展に貢献していきます。



オーガナイズドポスターセッション「気象情報・河川情報を用いた減災の取り組み」で発表する理事長



ポスターセッションで説明する安原・前戦略的維持管理研究所長

テーマ	表題、著者名 (※下線は当財団関係者)
河道変化と管理方策	3次元サイドスキャンソナーを用いた鬼怒川下流部における泥岩・沖積粘性土層露出河床の侵食特性の検討 塩見真矢・鈴木克尚・山本晃一・吉田高樹・小澤守
堤防管理	河川の機能評価による脆弱箇所抽出と維持管理目標の設定に関する検討 安原達(前戦略的維持管理研究所長)・関克己・小澤淳真・新清晃・高松宏行
	河川堤防における刈草放置の堤体強度への影響について 大澤寛之・戸谷英雄・山本嘉昭・山田政雄・吉田高樹
	堤防植生の効率的な機能保持に向けた低草丈草種等の導入について 宝藤勝彦・塩見真矢・伊藤一之・石原宏二・河崎和明
減災	水害時の避難指示等の意思決定構造に関する研究 関克己・湧川勝己・岡安徹也



第 14 回河川財団研究発表会の様子

## レポート

## 「第 14 回河川財団研究発表会」を開催

平成 28 年 6 月 29 日に「第 14 回河川財団研究発表会」を、一橋大学一橋講堂にて開催いたしました。

講演は、宇都宮大学農学部 雑草と里山の科学教育センターの小笠原勝教授に御登壇いただき、「河川堤防植生の維持管理における植物成長調整剤の活用」と題して、新たな堤防維持管理技術ともなる植物成長調整剤の安全性、農薬と医薬との違いなどの知識にはじまり、望ましい堤防植生とは何か、堤防除草が必要な理由、農耕地と河川の植物社会学的な相違点など、多角的な視点からお話ししていただきました。

研究発表では、戦略的な河川管理として「堤防植生」「河川管理施設の管理・河道管理」の 2 テーマについて、計 5 本の発表をいたしました。

「堤防植生」では、堤防植生と基盤土質の関係、堤防植生の初期管理である堤防養生工のあり方、および地域の在来種による堤防緑化技術についての研究成果

を報告しました。「河川管理施設の管理・河道管理」では、河川管理の点検結果評価要領のポイント、急流河川の側方侵食に対する戦略的な河道管理について発表しました。

また、河川財団の軸の 1 つである河川教育分野では、「流域から学ぶ河川教育」との視点から、流域視点の大切さ、各国における河川教育の現状等の報告を行いました。

120 名を超える参加者の皆様からは、最新事例が得られた、河川の維持管理は重要なテーマであるため引き続き発表を願いたい、研究成果の活用の展望を示してほしい等の意見をいただきました。

今後も皆様からのご期待に添えるよう、研究成果を幅広く社会に広め、貢献していくことを目指していきます。

担当：河川総合研究所

## これからの河川維持管理「河川研究セミナー」の開催

河川財団では、河川の新たな調査研究課題のシーズ調査や啓発を目的として、国土交通省国土技術政策総合研究所及び国立研究開発法人土木研究所等より講師をお招きし、「河川研究セミナー」を開催しています。

5回目となるH28年度は、平成27年9月の鬼怒

川の破堤や平成28年4月の熊本地震による堤防の変状を受け、「堤防調査等に関する最近の動向」に着目し、全4回の日程で、各機関の方々にご講演をお願いしております。

担当：河川総合研究所



第1回河川研究セミナーは、6月22日に下記の内容にて開催し、86名の方々に参加いただきました。

### 第1回河川研究セミナー（H28.6.22開催）

題目：「堤防植生管理の現状・課題と対策」

講師：（公財）河川財団 河川総合研究所

主幹研究員 山田 政雄

上席研究員 山本 嘉昭

題目：「堤防の湿潤・浸透に対するモニタリング」

講師：（一社）リバーテクノ研究会

地盤ワーキンググループ 幹事 阿部知之氏

「堤防植生管理の現状・課題と対策」の演題においては、河川堤防の維持管理について、近年の外来植物の影響により巡視・点検への支障や堤体機能の弱体化など問題が発生していることを踏まえ、堤防植生管理の現状と課題を整理し、要因と対策(案)を提案いたしました。

また、「堤防の湿潤・浸透に対するモニタリング」の演題においては、堤防内部状態の変化に着目したモニタリング技術について解説いただき、浸透・湿潤に対する技術に関する実堤防での現地試験についてご紹介いただきました。

第2回河川研究セミナーは、7月20日に下記の内容にて開催し、58名の方々に参加いただきました。

### 第2回河川研究セミナー（H28.7.20開催）

題目：「破堤氾濫被害の軽減に向けた技術開発—水理実験によるアプローチ—」

講師：国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所

寒地水圏研究グループ長 船木 淳悟 氏

「破堤氾濫被害の軽減に向けた技術開発—水理実験によるアプローチ—」の演題においては、破堤箇所に対する破堤拡大抑制・締切技術の開発と基準化を目指

して十勝川の千代田実験水路での実験と、つくばにある国土技術政策総合研究所の実験水路を用いた千代田実験水路の1/20スケールの実験で得られた知見についてご紹介いただきました。

第3回以降の河川研究セミナーは、下記の内容で開催を予定しております。なお、詳細は当財団ホームページにてご確認ください。

### 第3回河川研究セミナー（H28.8.5開催）

題目：「河川堤防の液状化対策」

内容：既往の地震による河川堤防の被災事例とそのメカニズム、これらを踏まえた河川堤防の耐震対策を実施する上での留意事項等について紹介する。また、今年度とりまとめた「河川堤防の液状化対策の手引き」の考え方について紹介する。

講師：国立研究開発法人 土木研究所 土質・振動チーム

上席研究員 佐々木 哲也 氏

### 第4回河川研究セミナー（H28.8.25開催予定）

題目：「河川堤防の被災原因調査と結果の活用について」

内容：昨年度に発生した河川堤防の被災とその原因調査の結果を分析し、被災の有無を分けた要因について推定する。また、その結果を踏まえ、河川堤防の弱点箇所の把握に向けた研究の現状と今後の方向性について紹介する。

講師：国土技術政策総合研究所 河川研究部

河川研究室 主任研究員 森 啓年 氏

題目：「堤防等河川管理施設の点検と評価について」

内容：「堤防等河川管理施設及び河道の点検要領」及び「堤防等河川管理施設の点検結果評価要領（案）」に基づき、現場で実施している点検・評価の取り組み状況や今後の課題について紹介する。

講師：国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

河川保全企画室 室長 若林 伸幸 氏

## レポート

### 第12期河川塾・初等科が開講

河川財団では、山本晃一（研究フェロー）を塾長とする「河川塾・初等科」を開催しております。

この河川塾・初等科は、河川に関わる技術者に必要とされる基礎知識、様々な資料や現地踏査から河道（河川）特性を読み取る技術力を研鑽する場として毎年開催しているものです。第12期となる平成28年度は、塾生として建設コンサルタント等から合計24名（3名の大学院生を含む）が参加し、5月9日から11月21日までの全28回（現地調査や水理実験場の見学等を含む）の開催が予定されています。

第1回（入塾式）では、山本塾長から河川塾で河川技術に関する疑問や課題を解決できるよう積極的に討議してもらいたいとの思いが塾生に伝えられました。

また、第8回（6月27日）は、多摩川下流域（二ヶ領宿河原堰から羽田弁天橋まで）の現地調査を行い、川のスケール感や河道条件によって変わる流れ、河床材料などを体感したことで、これまでに座学で学んだ技術をさらに確かなものとして身に付けました。

担当：河川総合研究所



二ヶ領宿河原堰で1974年水害について聞く



二子玉川・兵庫島公園で水制工について聞く

## レポート

### 工事現場に学ぶ ～樋管工事現場見学～

去る平成28年2月26日、財団内研修の一環として、国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所の御協力のもと、相模川に排水する樋管の改築工事現場を見学しました。現場見学は、旧樋管の撤去中の現場と、樋管本体築造中の現場の2箇所を実施し、堤防の開削、鋼矢板での土留め、既存水路の仮排水、足場の設置、型枠の設置等の作業状況を見学することができました。

河川総合研究所では、河川構造物の維持管理に関わる業務・自主研究を行っていますが、実際に工事現場を見ることで、施工順序や、施工に必要な仮設、安全管理等を学ぶ貴重な経験となりました。今後の業務・自主研究においては、この経験を活かして品質向上に取り組んでいきます。

それぞれの現場におきましては、現場監督の方より施工に関する御説明を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

担当：河川総合研究所



現場見学の模様

優良業務・優秀技術者表彰を受賞 ～平成 27 年度受託業務～

河川財団では、平成 27 年度に国土交通省より、河川の維持管理や河道管理、堤防植生管理、環境解析調査（河川生態系、水循環系）、河川教育等の分野を受

託しました。このうち、下記の 2 件の業務が優良業務表彰、優秀技術者表彰を受賞しました。

担当：河川総合研究所

表彰名	対象業務名	発注者
関東地方整備局長 優良業務表彰	H27 霞ヶ浦水環境等検討業務 （(株) 日水コンとの JV）	国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所
関東地方整備局 利根川下流河川事務所長 優良業務表彰 優秀技術者表彰	H27 利根川下流部堤防植生管理検討業務 管理技術者 山田政雄	国土交通省 関東地方整備局 利根川下流河川事務所



お知らせ

「第 10 回河川財団名古屋研究発表会」開催案内

10 回目の記念の年となる河川財団名古屋研究発表会は、産官学の河川技術者を対象として中部地方の河川がかかえる課題を主なテーマとして発表します。

昨年の研究発表会では、群馬大学、清水義彦教授に「植生化が進む砂州河道の地形と植生の管理手法に関する水理研究」と題してご講演をいただき、河川財団の研究発表・河川基金助成事業成果発表を行いました。

今年度は、記念発表会として、より中部管内の河川の課題について研究成果を発表するよう、テーマを決め充実した発表会とする予定です。 担当：名古屋事務所

第 10 回河川財団名古屋研究発表会

日時：平成 28 年 11 月 16 日（水）

会場：愛知県産業労働センター「ウイंकあいち」(名古屋市)

お知らせ

河川基金助成事業成果および近畿事務所自主研究合同発表会の開催のお知らせ

近畿事務所では、河川基金の助成事業として実施した研究の成果および当財団近畿事務所が自主研究として実施した成果の合同発表会を開催します。

今年度は、特別講演（予定）のほか、平成 27 年度の河川基金助成事業の成果 118 題の中から、地域性や話題性の高い研究を主体に 5～7 題、近畿事務所の自主研究から数題の発表を予定しています。

詳細は、今後の当財団のホームページで掲載する予定です。 担当：近畿事務所

河川基金助成事業成果および近畿事務所自主研究合同発表会

日時：平成 28 年 11 月 30 日（水）10:00-16:30

会場：OMMビル 2 階（大阪市中央区）

当財団では、「川に学ぶ」社会の実現をめざして、川や水辺を活用して体験活動を実践する学校や市民団体等に対して、子どもたちや市民に河川や水に関連した広範な知識・情報や体験活動を伴った「川に学ぶ」機会を提供する基盤を整備・推進しています。



## 河川教育

### レポート

#### 企業への協力（東京ガス企業館「がすてなーに ガスの科学館」）



東京ガスの企業館「がすてなーに ガスの科学館」が主催する春休みイベント「海でつながる島国日本！私たちと海の意外な関係?!」でプロジェクト WET のアクティビティを実施(2016年3月20日)



#### プロジェクト WET とは

全世界 66 以上の国と地域で普及されているワールドワイドの水教育プログラム。「アクティブ・ラーニング」の要素を持ち、模擬体験や協同学習をベースとしたプログラムで、学校の授業、地域のイベント、出前講座、野外活動等、様々な場面で活用できます。日本では河川財団が事務局となり、全国で約 8000 人が指導者として登録されています。

東京ガスの企業館「がすてなーに ガスの科学館」の依頼を受け、プロジェクト WET アクティビティを実施しました。

同館が行う春休みイベント「海でつながる島国日本！私たちと海の意外な関係?!（平成 28 年 3 月 19-27 日）」において、地球表面上の海と

陸の割合を学ぶアクティビティ「青い惑星」や、地球儀づくりの工作、地球の全水分量のうち、私たちが使用できる水の量を考える「大海の一滴」等を実施し、多くの子どもたちに海を含めた水の循環や、水の大切さを学んでもらいました。

担当：子どもの水辺サポートセンター

### レポート

#### SGH 指定校三島北高校への協力

文部科学省 SGH（スーパーグローバルハイスクール）指定校、三島北高校による LWI（Local Water Issues）授業の支援を 4 月 20 日と 27 日に行いました。5 月以降生徒自らが課題設定・追求するための基礎知識が得られるよう、「私たちの生活と水」をテーマに水循環を学ぶプロジェクト WET「ブルートラベラー」及び地下水汚染を学ぶ「重大な過ち」を水ジャーナリスト橋本淳司氏と連携し行いました。また、国際プログラムの特性を活かし、扱うワークシート等はすべて英語で記載された教材を使用しました。

担当：子どもの水辺サポートセンター



「自然界における水の循環」と「人為的な環境における水の循環」とを比較し気づきを促すプロジェクト WET「ブルートラベラー」実施の様子（4/20）

レポート

## 第15回プロジェクトWETファシリテーター講習会を開催

プロジェクトWETではファシリテーター（上級・普及指導者）294名、エデュケーター（一般指導者）約8,000名が認定されています。

10名が新たに認定された第15回ファシリテーター講習会では、一般指導者としての経験を積まれた参加者から、事前に8つのアクティビティについての課題を提出していただき、それらを元にして講習会を進めていきました。社会人から学生まで様々な地方や年齢の方が集い、地域の特徴を活用しながら対象年齢を考えたアクティビティを実施し、中身の濃い2日間の講習会となりました。今年度もファシリテーター講習会は冬頃に開催予定としております。

担当：子どもの水辺サポートセンター



第15回プロジェクトWETファシリテーター講習会  
平成27年12月12-13日、NATULUCK八丁堀（東京都中央区）

レポート

## ミス日本「水の天使」2015年度受賞者柴田美奈さん、2016年度受賞者須藤櫻子さん プロジェクトWETエデュケーターに認定されました。



平成27年11月のプロジェクトWETエデュケーター講習会を受講した  
2015年度ミス日本「水の天使」柴田美奈さん（写真中央上）



平成28年5月のプロジェクトWETエデュケーター講習会を受講した  
2016年度ミス日本「水の天使」須藤櫻子さん（写真中央手前）

プロジェクトWETではミス日本コンテスト事務局と連携し、2015年度ミス日本「水の天使」受賞者柴田美奈さんと2016年度受賞者の須藤櫻子さんに、エデュケーター講習会を受講していただきました。

ミス日本「水の天使」は、水の大切さを様々なチャンネルで伝える活動を行っており、水について分かりやすく伝えるツールとしてプロジェクトWETの活用を検討しています。

プロジェクトWETの推進にあたり、河川財団ではこうした様々な主体や分野の方々と連携し、水教育・河川教育の輪を広げて参ります。

担当：子どもの水辺サポートセンター



「下水道展16'名古屋」でWETの  
アクティビティ（青い惑星）を行う須藤さん  
（写真提供：ミス日本コンテスト事務局）



荒川上流（長瀬）での実習（安全管理及び川に学ぶ体験活動の指導法）

レポート

川の指導者（RACリーダー）養成講習会を開催

当財団では 河川教育の普及・促進を図る一環として、NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会（略称：RAC）認定の川の指導者（RAC リーダー）養成講習会等を職員向けに毎年開催し、川の指導者を養成しています。

平成 28 年度の講習会（6/17-19）では新たに 15 名が RAC リーダーと

なりました。全国の消防等への指導を行っている水難救助のスペシャリスト藤原尚雄氏に安全管理の実習をご担当いただき、講習会履修科目の「川と人、社会、文化の関わり」では、慶応義塾大学名誉教授であり NPO 法人鶴見川流域ネットワーク代表の岸由二先生に「流域思考」

に関する講義を行っていただくなど、川や流域の捉え方、川に親しむ際の安全管理の在り方、川と人の文化等様々な内容について学ぶ講習会となりました。

担当：子どもの水辺サポートセンター

レポート

第 13 回 RAC フォーラム「水防災・安全管理についての全国フォーラム」に参加

平成 28 年 3 月 5 日（土）～ 3 月 6 日（日）に「第 13 回 RAC フォーラム」が東京海洋大学（東京都江東区）において開催されました。

平常時の異常の発見から増水時の堤防等の異常等、川に行く機会の多い川の指導者が川の危険を発見する方法や、河川構造物の役割や名称等について詳しく学ぶセッションや、野外体験を行う上で役立つ「旧暦から学ぶ天候の読み方」及び「水辺で役立つロープワーク」、学校と連携して川での自然体験を行っていくための「学校連携コーディネーター養成講座」、川での事故を防ぐための

「安全管理マニュアル作り」等の各分科会が豊富にあり川の指導者が現場で役立つスキルが学べる実践的な

フォーラムとなりました。

担当：子どもの水辺サポートセンター



第 13 回 RAC フォーラム「水防災・安全管理についての全国フォーラム」分科会報告の様子

## レポート

### WECC2015 第5回世界工学会議で当財団の河川教育の活動内容を紹介

およそ4年一度に開催される世界工学会議。平成27年11月30日から12月2日に国立京都国際会館で開催された第5回世界工学会議の技術展示会ブース展示及びポスターセッションの場にて日本における河川財団の河川教育等の取組みについて紹介を行いました。特にプロジェクトWETの活動についてはイラン・モンゴル・マレーシア・パキスタン・キューバからの参加者の興味を引くことができました。

担当：子どもの水辺サポートセンター



WECC2015 第5回世界工学会議 技術展示会ブースの様子

## レポート

### 水難事故防止に関するマスコミ等への協力

当財団では河川水難事故に関する調査研究を長年行っています。その分析によればこの10数年間水難事故の死者数に大きな変化はなく、毎年同じような事故が繰り返し起きています。

同じ「水難事故」でも河川と海とでは、事故の傾向と対策は異なります。河川における水難事故を防止するには、「川のシートベルト」と呼ばれるように、ライフジャケットを着用することが第一です。

今年も当財団ではNHKやTBS、日テレをはじめとしたテレビ、新聞、ウェブマガジン等への取材協力・映像等の資料提供などを通じ、ライフジャケット着用の啓発活動を行っております。水難事故の防止に向け、より一層の広報活動を続けてまいります。

担当：子どもの水辺サポートセンター



マスコミの取材の様子

## お知らせ

### 第16回川に学ぶ体験活動全国大会 in 琵琶湖・淀川流域圏

全国の河川等で活動するNPOや市民団体で構成する「川に学ぶ体験活動協議会」。その全国大会が平成13年度から毎年度開催され、本年度は第16回目となります。近畿地方の大阪府・京都府・滋賀県では初開催です。

担当：子どもの水辺サポートセンター

#### 第16回川に学ぶ体験活動全国大会 in 琵琶湖・淀川流域圏

日時：平成28年9月3日（土）-4日（日）

会場：摂南大学寝屋川キャンパス（大阪府寝屋川市）他

主催：第16回川に学ぶ体験活動全国大会 in 琵琶湖・淀川流域圏実行委員会

レポート

荒川発・扇パークゴルフ初心者講習会

荒川

扇パークゴルフ場にて、毎月第3土曜日にパークゴルフの初心者講習会を開催しており、毎回幅広い年齢層の方、20名程の参加があります。

松戸市パークゴルフ協会の方々のご指導のもと、マナーやルールを簡単に学び、その後にコースに出てプレーをしました。コースを指導員と共にラウンドし、マナーやルール、ティーショット、アプローチ、パター等を行う際の様々な疑問をその都度

解決、状況に応じた打ち方の指導も受けて、毎回好評な講習会となっております。

講習会が終わった後は、1日まわり放題となっておりますので、指導員から学んだことを復習する参加者や参加者同士でラウンドされる方、ご家族で参加された方もいてお孫さんと仲良くラウンドされている姿も見られました。

パークゴルフは年齢、世代に関係

なく楽しめるスポーツとなっておりますので、これからも定期的に初心者講習会を行い、近隣地域、自治体と連携して、皆様に広く楽しんで頂けるよう努めていきます。

11月4日（金）にはプレーヤーの励みになるようなイベントとして、第2回扇パークゴルフ都民大会の開催を予定しています。

担当：東京事務所



荒川発・扇パークゴルフ初心者講習会



レポート

## 多摩川 春季ジュニア・シニア・ レディースラウンドレッスン

多摩川

平成 28 年 3 月 29 日、絶好のゴルフ日和の中、川崎リバーサイドパーク（ゴルフ場）でラウンドレッスンが行なわれました。皆様からの熱い要望にお応えして定員のほぼ倍、76 名でレッスンが行なわれました。

小学 3 年生から 80 代の方が参加し、世代の違うジュニア、シニアでパーティを組み、ティーチングプロから技術とマナーを学びつつ世代間交流も楽しみながらラウンドをして頂きました。

次世代を担うジュニアの奮闘する姿、それを温かい眼差しで見守るシニアの方々、その光景は見ている側も口元がほころぶ心温まる光景でした。

担当：東京事務所



多摩川 春季ジュニア・シニア・レディースラウンドレッスン



レポート

## 荒川・扇ゴルフ場ジュニアレッスン

荒川

平成 28 年 3 月 28 ～ 30 日の 3 日間は扇河川健康公園内にあるゴルフ練習場で打ち放題のレッスンを、3 月 31 日、4 月 1 日の 2 日間は新都民ゴルフ場にご協力を頂き、ラウンドレッスンを行ないました。ゴルフ練習場でそれぞれのレベルに合った技術指導を行い、その成果を踏まえてゴルフ場ではマナーも含めて実戦に活かせる指導を行ないました。

ゴルフ練習場では自分のウィークポイントを認識、修正し、そのイメージと感触を残しながら新都民ゴルフ場で実戦に即したラウンドレッスンという、連動したレッスン内容に大変好評を頂いております。

担当：東京事務所

## 荒川発・扇河川健康公園ソフトテニスジュニアレッスン

荒川

平成 28 年 7 月 3、10 日の 2 日間、荒川・扇河川健康公園にて、足立区ソフトテニス連盟のご協力のもと、合計 21 名が参加しジュニアレッスンを開催いたしました。

7 月 3 日は「ラケットでボールを打ってみよう」、10 日は「ルールを知って、ゲームをしよう」と 2 段階構成でレッスンが行われました。

今回は、小学生低学年の参加が多く、テニス初めてのジュニアがほとんどで、まずはラケットとボールに慣れるようボールはジュニア用に準備したやわらかで大きめのボールを使用し、レッスンを開始しました。

子どもたちは真剣な顔でレッスンを受けていて、ラケットにボールが当たらなかったり、思い通りにボールが飛ばないなど、初めはうまくできないことがありましたが、打ち返せた時には笑顔が出ていたのが印象的でした。10 日には前回の練習を踏まえて試合形式でレッスンを行うなど、2 日間のレッスンで上達した様子が見られました。

暑い中 3 時間のレッスンでしたが、足立区ソフトテニス連盟の方々の熱意がレッスンを有意義なものにし、参加者や親御さんも満足頂けた実り多いレッスンとなりました。

担当：東京事務所



荒川発・扇河川健康公園ソフトテニスジュニアレッスン

多摩川

## 川崎リバーサイドパークが「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞

川崎リバーサイドパーク（ゴルフ場）が、平成 28 年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞しました。

この賞は、環境省が国民の自然環境保全への関心を深めることを目的に、「みどりの日」にちなみ自然環境の保全に関し顕著な功績があった者（又は団体）を表彰するものです。

川崎リバーサイドパーク（ゴルフ場）は、緑化事業に取り組むゴルフ緑化促進会（Greenery by Golf Group: G.G.G.）の協力会員ゴルフ場として、開場当初（昭和 62 年）よりゴルファーから頂いた緑化協力金（1 人 1 日 50 円）の寄附を行い、長年にわたり河川敷等の緑化植樹・環境保全・緑化普及啓発事業に協力してきました。

このような取り組みが、緑化推進事業への積極的な取り組みと自然環境の保全に尽力した功績として認められ、「みどりの日」自然環境功労者環

境大臣表彰（いきもの環境づくり・みどり部門）としての評価を受けたものです。

今後も、緑化および環境保全事業の推進に努めるとともに、地域のみなさまに親しまれるゴルフ場としてみどり豊かな環境づくりに貢献していきます。

担当：東京事務所



「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰状

お知らせ

## 荒川発 第2回扇パークゴルフ 東京大会（仮）

荒川

前回の大会は初めての大会にも関わらず、40名以上の方々にご参加いただき、大会を通じて交流を深めることができました。また、ゲストプレイヤーとして萩史之氏をお招きし、楽しみながらも緊張感溢れる大会になりました。詳細は決まり次第、当財団HPに掲載します。 担当：東京事務所

### 荒川発 第2回扇パークゴルフ東京大会（仮）

日時： 平成28年11月4日（金）8:00～13:00（予定）

会場： 扇河川健康公園パークゴルフ場

定員： 約100名（予定）

参加費： 未定

お知らせ

## 多摩川発 第3回多摩川世代間 交流ゴルフ大会

多摩川

前回の大会は一般、シニア、レディース、ジュニアの99名が参加し、大塚製薬や大塚食品、伊藤園、サントリーにも協賛を頂く等、参加者の笑顔溢れる大会となりました。詳細は決まり次第、当財団HPに掲載します。 担当：東京事務所

### 多摩川発 第3回多摩川世代間交流ゴルフ大会

日時： 平成28年10月22日（土）8:00～13:00（予定）

会場： 川崎リバーサイドパーク（ゴルフ場）

定員： 約120名（予定）

参加費： 未定

# 夏・秋の河川健康公園イベント情報

お知らせ

## 庄内川親子自然観察会

庄内川

庄内川幸心健康公園をベースキャンプとして、庄内川の河川生物・河川沿線の植物や昆虫・鳥などの自然を観察を行うものです。観察会は一般公募による親子を対象に、Eボートによる水面からの魚・底生成物及び水際の植物などの自然観察と幸心健康公園内の草地において昆虫採集などを行います。 担当：名古屋事務所

### 庄内川親子自然観察会

日時： 平成28年9月22日（祝）13:00～15:00

会場： 庄内川幸心河川健康公園

お知らせ

## 庄内川 親と子&シニア ゴルフレッスン会

庄内川

幸心河川健康公園内ゴルフ練習場において「庄内川 親と子&シニアゴルフレッスン会」を今年度、下記のとおり、秋と春の2回開催を予定しています。

レッスンは、ゴルフプロ3人による指導のもと、マナー・技術について、アプローチ・パター・打席に分かれレッスンをを行います。 担当：名古屋事務所

### 庄内川 親と子&シニア ゴルフレッスン会

日時： 平成28年10月29日（土）10:00～12:00（予定）

平成29年3月19日（日）10:00～12:00（予定）

会場： 幸心健康公園内ゴルフ練習場

定員： 各日30名（親と子供+シニア）

レポート

## 河川基金中期計画（第1期）を策定しました

河川財団では昭和63年3月の「河川整備基金」創設以来、約30年間にわたって河川にかかる調査・研究、啓発活動、河川教育等の活動への支援を行ってきました。その一方で、社会情勢の変化等により「河川整備基金」を取り巻く状況や社会的要請も大きく変化したことから、将来に向けた基金の見直しや新たな役割の構築が必要となりました。

そこで河川財団では、平成26年度から平成27年度にかけて、河川、環境・生態、教育、法律といった幅

広い分野の外部有識者を委員とする「今後の河川整備基金のあり方検討委員会」を設置して議論を行い、平成27年7月に委員会報告をとりまとめました。

この委員会報告を基本としてその具体化を図るため、河川財団では平成28年度から平成32年度を計画期間とする「河川基金中期計画（第1期）」を平成28年6月に策定しました。今後、この計画をもとに河川基金事業を進めて参ります。

担当：基金事業部

### 河川基金中期計画（第1期）の概要

#### 事業 フレーム

##### ■助成事業

- ・ 助成部門を助成対象者別に、「研究者・研究機関部門」、「川づくり団体部門」、「学校部門」の3つに再構築し、研究者、市民団体、学校等の活動を支援。
- ・ 川づくりへの貢献や成果の活用を重視した採択評価基準の設定。

##### ■推進事業

- ・ 次の時代を見通した政策課題について、先導的な調査研究を推進。
- ・ 川づくり団体支援や河川教育推進のためのネットワーク・プラットフォーム機能を強化。

#### 河川基金 の充実

##### ■一般市民等からの寄附金の受け入れ

- ・ 寄附の受け皿のメニューの充実、用途に寄附者の意思や希望を反映する仕組みの導入などにより、寄附のしやすい環境づくりを促進。

##### ■企業との連携、関係構築

- ・ 企業のCSR/CSV活動を主なターゲットに、企業との連携を強化。
- ・ 企業のニーズへの柔軟な対応。

#### 資金計画

- ・ 厳しい運用環境の下での収入見込みと、収入確保の努力。
- ・ 助成事業、推進事業等への必要な予算の確保。管理費縮減への継続的な取り組み。
- ・ 収支バランスの見込みと、収支が不足する場合の対応。



## 書籍紹介



子どもの水辺サポートセンターでは、河川教育に関する様々な資料を作成しています。

このたび、安全対策等に関する基本的な情報などをまとめた「水辺の安全ハンドブック ～川を知る。川を楽しむ～」の新装版（2016年版）を作成し、販売を行っています。

また、小学生が川をフィールドとして、安全に楽しく学び遊べるようさまざまな体験活動の指導書として2011年に作成した「川を活かした体験型学習プログラム」を4月より無料ダウンロードできるように致しました。

是非ご利用ください。



108円  
(税込)

### 水辺の安全ハンドブック（2014年版）

川や水辺をフィールドとした体験活動や環境学習では、安全が最優先となるため、当財団では、平成12年から水難事故防止に向けた啓発活動の一環として、川や水辺に内在するさまざまな危険やこれらに対する知識・準備・対処・心構えなどについて分かりやすくまとめた「水辺の安全ハンドブック」を作成・販売しています。



無料  
DL

### 川を活かした体験型学習プログラム

小学生等が川をフィールド又はテーマとしたさまざまな体験活動の実践事例を収集整理した「川を活かした体験型学習プログラム」を作成しています。

入手方法は、当財団ホームページからダウンロードできます。



無料  
DL

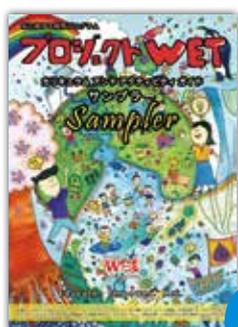
### 水教育ガイドライン

子どもたちが学ぶ学校教育に「水」を切り口にした、つまり「水教育」を普及するために、①学習指導要領に準拠した内容で水教育の体系化を図ること、②簡潔明瞭で教育関係者に理解が容易な手引書として作成しました。

入手方法は、当財団ホームページからダウンロードできます。

## 河川教育に関する出版物

河川教育に関する出版物のお求めは、  
子どもの水辺サポートセンターにお問い合わせ下さい。



500円  
(税込)

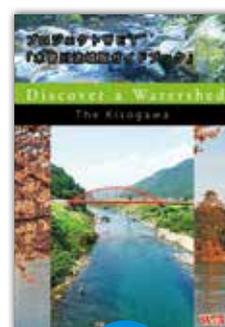
### プロジェクトWETサンプラー

アメリカで開発された体験型水教育プログラム「プロジェクトWET」を、より多くの皆様にしていただくために「プロジェクトWET・カリキュラムアンドアクティビティ・サンプラー」を作成・販売しています。

### プロジェクトWET

#### 「木曽川流域版ガイドブック」

当財団（プロジェクトWETジャパン）は、初の流域版教材となる「木曽川流域版ガイドブック」を作成しました。通常のガイドブックは、講習会を受講した方のみでの使用となりますが、本ガイドブックは地域版教材のため木曽川流域に興味・関心のある方どなたでも購入・使用できます。



2500円  
(税込)

## ご寄附のお願い

### 河川基金へのご寄附について

河川基金（平成 28 年度助成事業より、名称を「河川整備基金」から「河川基金」に変更）は、民間の協力を得て河川整備を緊急に推進するため、政府の閣議了解に基づき昭和 63 年に設立されました。

河川基金では、その運用益をもちいて、河川に関する様々な調査・研究、市民団体等の川づくり団体が行う河川への国民の理解を深める活動、学校教育の現場において河川・流域を通じて環境・防災・歴史文化等を学習する河川教育の支援をしてきています。今後も、よりよい「川づくり」に役立つ様々な活動に支援を行うことにより、人々の河川への理解が深まり、人と川の良好な関係がさらに強いものとなることをめざします。

このような河川基金の趣旨をご理解いただき、本基金のさらなる造成のためにご協力をお願い申し上げます。



河川基金

### その他の当財団事業へのご寄附について

当財団の事業に必要な資金は、河川基金の運用収入により実施している助成事業を除き、主に事業収入により実施していますが、今後さらにこれらの活動を充実させていくためには、当財団の事業にご理解とご賛同をいただいた方々からのご寄附が貴重です。ご協力をお願い申し上げます。皆様からいただく寄附金は、本財団の「寄附金取扱い規程」に則り、有効に使用させていただきます。

詳細は河川財団 HP をご覧ください。

河川財団

検索

### 寄附金の税法上の優遇措置について

当財団は、内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受けております（認定日は平成 25 年 3 月 21 日、法人登記日は同年 4 月 1 日）ので、当財団への寄附金には上記の河川基金への寄附金及び一般寄附金のいずれについても特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税（個人）・法人税（法人）の所得控除等が受けられます。

## ご寄附の御礼

### 寄附者の皆様へ

平成 27 年 7 月 1 日から平成 28 年 6 月 30 日までの一年間に「一般財団法人 宮崎大淀川スポーツセンター」や「釧路リバープロテクション 21 の会」をはじめとする、団体や個人の皆様から 3,020,433 円のご寄附をいただきました。寄附者の皆様に心より御礼申し上げます。ご厚志につきましては、河川基金として管理し、その運用益を河川の治水・利水・環境に関する調査、川づくり団体の活動や学校での河川教育を支援する助成事業のために有効に使わせていただく所存でございます。



公益財団法人

河川財団

#### 本部

総務部  
経営企画部

TEL:03-5847-8301  
TEL:03-5847-8302

FAX:03-5847-8308  
FAX:03-5847-8308

基金事業部  
子どもの水辺サポートセンター

TEL:03-5847-8303  
TEL:03-5847-8307

FAX:03-5847-8309  
FAX:03-5847-8314

河川総合研究所  
(戦略的維持管理研究所)

TEL:03-5847-8304

FAX:03-5847-8310

東京事務所

TEL:03-5847-8306

FAX:03-5847-8310

#### 本部

〒 103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 11-9 住友生命日本橋小伝馬町ビル (2F)  
http://www.kasen.or.jp E-mail:info@kasen.or.jp

#### 名古屋事務所

〒 463-0068 名古屋市守山区瀬古 3 丁目 710 番地  
TEL052-388-7891 FAX052-388-7918  
E-mail:info-n@nagoya.kasen.or.jp

#### 近畿事務所

〒 540-6591 大阪市中央区大手前 1-7-31 (OMM13F)  
TEL06-6942-2310 FAX06-6942-2118  
E-mail:info-o@osaka.kasen.or.jp